

## ～小学部の紹介～



### 【願う姿】

- ・生活リズムを整え、元気に生活する。
- ・いろいろなことに興味・関心を持ち、すすんで活動する。
- ・思いやりの心を持ち、友達と一緒に仲良く遊ぶ。

### ◇日常生活の指導

衣服の着脱、排泄、食事、清潔等の基本的な生活習慣の習得を通して日常生活の充実を目指しています。自分の身の回りのことは自分でできるよう、毎日繰り返し取り組んでいます。

### ◇生活単元学習

生活上の望ましい習慣・態度の形成を目指し、必要な知識や技能の習得とともに、身に付けた内容が生活に生かされるように、実践的・総合的な学習をしています。

### ◇自立活動

児童が自立を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するための必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達のための基盤を培うために、個々に応じた学習をしています。



日常生活の指導「着替え」



日常生活の指導「朝の会」



教科学習「算数」



自立活動「ボウリングをしよう」



生活単元学習「むしパンをつくらう」



教科学習「図工」



交流及び共同学習



校外学習



行事「おおとばフェスタ」



行事「修学旅行」

### ◇小学校との「交流及び共同学習」

令和5年度は、小学部3年生は大垣市立日新小学校の3年生と、4～6年生は養老町立日吉小学校の4～6年生と、交流及び共同学習を年に2回行いました。

### ◇「居住地校交流」

児童が住んでいる地域の小学校と「居住地校交流」を積極的に行っています。

# 令和6年度 小学部 指導の方針と重点

## 教育目標

### 校訓 「強く 明るく 仲良く」

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育を行うことにより、一人一人の可能性を最大限に伸ばす。さらに、「強く 明るく 仲良く」生きようとする意欲を高め、一人一人の自立と社会参加を目指し、基礎的・基本的な力を身につけ、「生きる力」を育む。

## 指導の方針

#### 【願う姿】

- ・生活リズムを整え、元気に生活する。
- ・いろいろなことに興味・関心をもち、すすんで活動する。
- ・思いやりの心をもち、友達と一緒に仲良く遊ぶ。

- ・家庭や地域との連携をはかり、社会生活に必要な基礎的な生活習慣の形成を図る。
- ・個々の実態を的確に捉え、様々な活動の中で、「楽しい」「やりたい」と期待がもてる場面を設定する。
- ・自己の課題に見通しをもち、「わかる」と感じられる指導・支援をする。
- ・自分の思いや気持ちを周囲の人に伝え、選び、決めることが「できる」状況をつくる。

## 指導の重点

- 1 見通しがもてる分かりやすい授業・生活づくり
  - (1) 一人一人の児童の発達段階や学習状況等の的確な実態把握の下、教育的ニーズを踏まえ、授業の指導内容・方法や教材・教具の工夫、授業評価を行い、授業改善に取り組む。
  - (2) 児童が主体的に活動することができる場面・環境をつくる。
  - (3) 言語に関する能力を育むために、授業だけでなく学校生活全般において、言語環境が豊かになるよう働きかける。
- 2 健康な体づくり
  - (1) すすんで体を動かすことに取り組む意欲や態度を育てる。
  - (2) 給食等、栄養バランスのとれた食事を楽しく食べることができるよう、一人一人の児童の特性に応じて、家庭と連携を図りながら指導・支援をする。
  - (3) 医療的ケアの充実を目指し、保護者や主治医、指導医との連携を図る。
  - (4) 危機意識をもち、環境を整えることで、一人一人の児童の安全・安心の確保に努め、事故を未然に防止する。
  - (5) ルールを守る、安全に行動する、病気の際は静かに過ごすなど、自分の身体を大切にする気持ちが育つように、授業だけでなく学校生活全般において、働きかける。
- 3 友達との温かい人間関係づくり
  - (1) 友達と仲良く遊び、集団活動に参加・適応できるように指導・支援を工夫する。
  - (2) 温かく、好ましい人間関係を育てるために、近隣小学校との交流及び共同学習や居住地校交流、学部内での学年間交流を推進する。
- 4 保護者との信頼関係づくり
  - (1) 一人一人の児童の教育的ニーズを把握し、保護者や福祉、医療等の関係機関との連携を踏まえた個別的教育支援計画を作成・活用し、きめ細かな指導・支援を推進する。
  - (2) 保護者との連携を密にするために、連絡帳や学年通信等で、必要な情報を提供し、共通理解を深める。保護者の要望や意見等があった場合は、迅速かつ丁寧に対応する体制をとる。
  - (3) 家庭で児童を見失うなど重大な事態になった時は、警察・学校に早急に連絡していただき児童の安全を図るとともに、早期対応の大切さを啓発していく。